



日本歌唱芸術協会（本部：沖縄）

2024 年度 定期活動

8 月 24 日（土）

「例会」

公式ホームページ：<https://www.jsaa-okinawa.org/>



日本歌唱芸術協会（本部：沖縄） お問い合わせ

jsaa.okinawa@gmail.com

「研修演奏会」 講師：宮本亞門（演出家）

8 月 25 日（日） 13 時開演 パレット市民劇場

◎「例会」は、本協会の理念「音楽は平和を運んで来る」を実現するための最も重要な定期活動です。誰でも自分の身体一つを楽器として「音楽」ができる「歌唱」の基本的知識（発声のメカニズムを知って声の故障を予防する）と、歌声の良い音響を得るための声楽を礎としたトレーニング（合唱と独唱）を研修して、楽器としての身体を100人100とおりに作っていきます。基本研修には声楽家も愛好家も違いはありません。そして、声楽家の演奏時の息づかいが間近で体感でき、どのように身体を使っているのかを見る機会を設定しました。演奏する声楽家にとっても、演奏時に聴く人を肌身で感じられる貴重な成長の機会となっています。人生100年時代を迎え、個別の身体に注目してその人のベストの歌声に導くことで、元気な日々をゲットすることが「例会」の目指すところです。

本協会の企画運営は、公式の声楽家・ピアニスト、耳鼻咽喉科医師があたっており、作曲家、指揮者、身体運動科学者の見解と協力もあります。我々は沖縄の気候風土は世界的にも歌唱に適していると考えているので、本部は沖縄です。皆さん！大いに歌っていきましょう！！

[例会内容]

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|-----|
| (1) ワークショップ:楽器としての身体作り | 講師:豊田 喜代美 (声楽家, 博士) | 30分 |
| 歌唱前の準備運動:姿勢⇒呼吸⇒発声 | | |
| (2) ワークショップ:声楽アンサンブル | 講師:宮城 敏 (合唱指揮者, 声楽家) | 60分 |
| アカペラによる「赤とんぼ」「故郷」をレパートリーに! | | |
| (3) 声楽家のミニ・コンサート | 講師:金城 真希, ソプラノ 仲村渠 悠子, ピアノ | 30分 |
| (4) 発声のしくみ (音声生理学) | 講師:喜友名 朝則 (耳鼻咽喉科医師) | 30分 |

声楽家のミニ・コンサート 曲目 & 解説 (金城 真希)

・「ひぐらし」 北山冬一郎:作詩 團伊玖磨:作曲

むなしく過ぎ去った日々。そしてこれからもむなしく過ぎてゆくであろう人生への後悔。ひぐらしの鳴き声が慟哭として激しく胸にひびく。ひぐらしは、かなかな蝉とも呼ばれ夏の終わり頃の早朝、夕暮れに物悲しい声で鳴く。

・「紫陽花」 北山冬一郎:作詩 團伊玖磨:作曲

紫陽花の花をながめ、7月の太陽の目もくらむような情熱で、追い求める憧れの人とめぐりあうことのできない、切ない思いと期待を歌っている。

・「九十九里浜」 北見志保子:作詩 平井康三郎:作曲

九十九里の浜に立ち、日の出を仰ぎ、荒立つ波のかなたに水平線を臨む、幾重にも重なる波は意思を阻むものか。だが、しっかりと大地に足を踏みしめ、決意をあらたにする。

・「うぬぼれ鏡」 小黒恵子:作詩 平井康三郎:作曲

中年にさしかかった美女の心理が独白のかたちで歌われる。軽妙な機知にあふれた流れのなかで、ユーモア、洒落っ気、アイロニーがエレガントな雰囲気をかもしだすユニークな詩。

・オペラ「ラ・ボエーム」より ムゼッタのアリア“私が町を歩くとき”

自由奔放な美女ムゼッタは、カフェ「モミュス」で元恋人マルチェッロと偶然再開する。未練があるムゼッタはマルチェッロが自分と別れたことを後悔するように、自分の魅力について歌う。

・オペラ「マノン・レスコー」より マノンのアリア“この柔らかなレースの中で”

修道院に入ることになっていた美しいマノンに青年騎士デ・グリュウは一目惚れし、2人でパリに駆け落ちする。マノンはパリでの貧乏暮らしに嫌気が差し、大蔵大臣ジェロントの愛妾になる。贅沢だが愛のない生活に虚しさを覚える。豪華な住まいで美しい衣装を着ていても満たされない彼女の心を歌っている。

・オペラ「トゥーランドット」より リューのアリア“お聞きください、王子様”

密かに王子(カラフ)を愛する女奴隷リューの切ないアリア。トゥーランドット姫に恋したカラフが 3 つの謎解きに挑戦しようとした時、失敗すれば斬首されるので、リューがそれを止めるため涙ながらに思いを訴える。中国的異国情緒に溢れた、物悲しい旋律。

・オペラ「つばめ」より マグダのアリア“ドレッタの夢”

とあるパーティで詩人のプルニエが新作の「ドレッタの夢」という詩を歌い始める。上手くまとめることのできないプルニエに代わってマグダが見事に歌いあげる。突然、沸き起こる恋心、富よりも大切な恋を歌うこの歌は、その後のマグダの運命を予感させるようである。

[声楽家ミニ・コンサート演奏者 金城 真希 Maki Kinjo ソプラノ]



金城 真希 略歴

沖縄県出身。沖縄県立芸術大学声楽専攻卒業。同大学大学院修了。03 年おきでんシュガーホール新人オーディション入選。04～05 年、イタリアにて研鑽。07 年日本歌曲振興会(波の会)日本歌曲コンクール入選。14 年第 6 回東京国際声楽コンクール入選。15 年オペラ公演『椿姫』ヴィオレッタ役(愛島主催)。元沖縄県立芸術大学非常勤講師。現在、アルテ音楽教室講師。日本歌唱芸術協会会員(幹事)。

仲村渠 悠子 略歴 Yuko Nakandakari ピアニスト

沖縄県出身。作曲および編曲の公式活動。桐朋学園女子高等学校音楽科卒業、同大学音楽学部卒業(最高点)同大学研究科修了(最高点)。ドイツデトモルト音楽大学卒業(首席)。ドイツ国家資格取得。ドイツ国内、ギリシャ、韓国、中国にてオーケストラとの共演、室内楽、ソロの演奏活動を行い、韓国では 15 年に、国立アジア文化殿堂より第 1 回 Anniversary Performing Arts-Festival in Gwangju に招待されピアノ作品の世界初演若いピアニストたちへの指導を行った。村上淳一郎/ケルン WDR 交響楽団首席ピオラ奏者他、国内外の演奏家と共演。また、作曲および編曲の公式活動は CD に収録されている(「Spring Garden」、「To My Children」、「Lulu」)。22 年のショパン全曲演奏会 Vol.1「仲村渠悠子ピアノコンサート～ショパンとその愛弟子」(パレット市民劇場)以来、ショパン作品演奏会を毎年開催している。1992 年度 PTNA ピアノコンペティション全国大会 E 級 銅賞・全日空賞・ソニー賞受賞。第 5 回おきでんシュガーコンクール新人演奏会優秀賞。第 13 回彩の国埼玉ピアノコンクール一般の部第 1 位・県知事賞受賞。第 10 回日本国際室内楽コンクール第 4 位。ギリシャレシムノンザイラー国際ピアノコンクールディプロマ賞受賞。ドイツデトモルト音楽大学講師(09-15)。日本パッサコンクール、ブルグミュラーコンクール、全日本ピアノコンクール審査員。22 年度(第 57 回)沖縄タイムス選奨奨励賞受賞。現在、沖縄県立芸術大学非常勤講師。一般社団法人日本音楽協会南日本支局副委員長。日本歌唱芸術協会理事(副代表・事務局長)。演奏予定:25 年 4 月 25 日(金) 仲村渠悠子ピアノコンサート・ショパン全曲演奏会 Vol.4、なは一と小劇場。